

# 学校関係者評価

大阪観光ビジネス学院は、「2022 年度学校自己点検報告書」の結果をもとに、学校関係者評価を実施いたしましたので、以下のとおり報告いたします。

2023 年 5 月 19 日  
大阪観光ビジネス学院

## 学校関係者評価委員

岩田 順敬 大阪観光ビジネス日本語学院 校長  
植田 輝美 大阪観光ビジネス日本語学院 生野校 教務主任  
河田 真一 司法書士事務所 代表  
本木 秋実 大阪観光ビジネス日本語学院 事務局長  
張 福軍 佳和商事株式会社 社長  
森 義晴 近畿日本語学院 校長  
佐藤 功 建築設計事務所 代表  
王 丹 卒業生 代表

## 評価領域ごとの学校関係者評価・意見

I. 学校経営	<ul style="list-style-type: none"><li>・ホームページ等により外部に向けて広く情報提供がされており、開かれた学校経営を展開している。</li><li>・定期的に理事会を開催しており</li><li>・大きな問題はない。</li></ul>
II. 教育課程・教育活動	<ul style="list-style-type: none"><li>・人間関係の構築に向けて、基本となるコミュニケーション力を向上させるために努力している。</li><li>・基準に基づき適切に教育課程が作られており、教育活動も適切に行なわれている。各授業においては、シラバスの活用やアクティブラーニング手法の採用など、授業ごとの教育目的を学生に伝え、授業運用を行なわれている。選択科目を本格的に運用開始し、午後の時間帯で「選択科目制」を導入し、個々の学生の得意としている授業を選ぶことにより、学生の能力を高め、資格取得率をさらに高め、知識・能力・資質等を身につけた者を育成することを目指している。</li></ul>
III. 入学・卒業対策	<ul style="list-style-type: none"><li>・職員より定期的に学校訪問、入学説明会を開催している。学校案内、ポスター、募集要項及び指定校推薦、OB 推薦等を関係学校に掲示して周知を図ることも考えられる。</li><li>・資格試験対策特別講義等が実施されており、資格試験に向けての対策がされている。</li></ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・就職につながるインターンシップ先の開拓が順調に進めており、その成果もあり、高い就職率が確保された。</li> <li>・卒業後の進路の多様化に対する学校としての対応が、さらに必要となる。</li> <li>・日本人学生募集について高校訪問等の戦略的広報活動をより充実・強化している。</li> </ul>
IV. 学生生活への支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学生に寄り添った面談・相談等が適宜行なわれていると感じる。</li> <li>・学生の資質の変化に対応しつつ、社会人基礎力を育てる学生指導をお願いしたい。</li> <li>・担任の責任を明確にした。</li> <li>・学生によっては入学後の授業の理解度に差が見られたり、学科の学びについての十分な理解がなく、ミスマッチが生じたりすることもあるが、授業の内容や伝え方を工夫するとともに、基礎学力を含めた学びの理解度向上に努めている。</li> </ul>
V. 管理運営財政	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大きな問題なく運営されている。</li> <li>・変化する時代に選ばれ続ける学校であり続けるための施策を実行し、確かな財政基盤の確立を目標している。</li> </ul>
VI. 施設設備	<ul style="list-style-type: none"> <li>・適切に施設清掃・施設管理が行なわれていると感じる。</li> <li>・駐輪場を完成し、運営は開始した。</li> <li>・業務効率化、正確化のため学生の出席確認は顔認証情報を学生のスマホで確認できるようになった。</li> </ul>
VII. 教職員の育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・出欠管理を含め教員の学生指導が良く出来ていると感じる。</li> <li>・週に1回教職員会議で自己研鑽に励んでいると感じる。他教員の講義を見学しあうことは、自分の講義の振り返りの機会にもなると考える。</li> <li>・校内での教職員の育成は、人数的な制約もあり限界があるが、今後も長く学生を見守る教員に残っていただきたい。</li> <li>・FD活動を組織的かつ多面的に実施し、教員の資質向上及び教員組織の改善・向上を強化したい。</li> </ul>
VIII. 広報・地域活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・関係学校にも協力してもらい、広報活動していくとよいのではないかと。</li> <li>・学生が地域のボランティアや災害時医療救護訓練などに参加する等、頑張っているが更にアピールをしてもいいと思う。</li> <li>・ホームページが適宜、更新されており、行事などの写真もあり、学校生活がわかりやすい。</li> <li>・国連主催の「国際交流教育プログラム」、公益財団法人大阪観光局主催の「大阪 B&amp;S プログラム」等に参加し、小学生、中学生、高校生等の交流を深め、地域における国際化に貢献しているが、今</li> </ul>

	後も引き続き地域貢献・連携に関する取り組みをさらに進める体制づくりが必要である。
--	--

## 学校関係者評価 総括

今年度「2022年度学校自己点検報告書」の結果をもとに学校関係者評価を実施いたしました。2022年度より新たに取組んだ学校運営内容を含め、概ね、本校の学校運営について、各評価項目とも大きな教育的課題のご指摘はございませんでした。

「選択科目制」を導入し、個々の学生の得意としている授業を選ぶことにより、学生の能力を高め、資格取得率をさらに高めることができる内容の充実したカリキュラムの改訂に努めます。

履修指導については、各学科において前期・後期授業開始前に履修ガイダンスを行うほか、担任が各クラスの学生全員と定期的に面談を行い、欠席過多や成績不振の学生等に対しては、随時個別指導を行っています。「大阪ナンバーワンスクール」の実現に向け、個別面談の実施強化や出席状況の把握、欠席がちな学生への連絡等、事業計画の推進と絡めて各グループに具体的な目標や指標を明示し、その達成状況を都度確認することで、取組を推進しています。

社会連携・社会貢献に関する本校の方針に沿って、教育の成果をもとに社会連携・社会貢献、地域交流、国際交流事業、学外組織と連携を推進しています。今後は、大阪府観光局連携のプロジェクト等をより一層推進し、地域連携等・産学官連携活動等に一体となって取り組んでいくことで、さらなる社会連携・社会貢献に努めます。

より良い学校運営のため、真摯に学校関係者の皆様から頂きましたご意見を受け止め、今後の学校運営に活かしていくとともに、本校の教育理念に沿った質の高い卒業生を送り出し、観光業界だけではなく日本の産業界、地域に貢献していけるよう努めていきたいと考えています。